

校長会 みえ No. 60

●発行 三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内
TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
●編集 三重県小中学校長会 広報委員会
●印刷 光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



私の学校づくり

常に自己を 振り返りながら



尾鷲市立尾鷲中学校 校長 小川 誠

今年度で校長4年目を迎えました。情けない話ですが、過去にこれといった業績もなく、校長という役職に関しても、未だに自信を持てたことがありません。毎日、自分の無能さと心の弱さに嘆き続けている私です。

ただ、こんな私でも教育に関して確信していることが一つあります。それは、良くも悪くも、「学校は、私たち教師の力によって大きく変わる」ということです。

人を正しく育てためには、質の高い学校教育が必要で、質の高い教育を行うためには、まずは私たち教職員が、人としての総合的な力（人間力）を身につけていかねばなりません。

年度当初の職員会議で、私は教職員に良い教師になるための6つの努力目標を示しました。①「子どもとより良い教育的関係を築く」②「社会人として成熟する」③「集団を指導する力と個人を生かす力を持ち合わせる」④「教科等の指導



力を深める」⑤「学び続ける姿勢を持つ」⑥「魅力のある教師集団を形成する」

これらは全て、ありきたりの目標かも知れませんが、普段の私たちは、子どもたちの現実に目がいって、教師としてや、人としての自分を見つめ直す機会が少なくなっているような気がするのです。教育は、「人」のみが成し得る尊い営みです。常に自己を振り返りながら、謙虚な気持ちで自己研鑽を積み重ねていくことが大切です。また、教育という営みは、私たちの姿そのものが、ダイレクトに子どもに反映していきます。「こんな子どもを育てたいなら、まずは教師（自分）から」「こんな集団をつくりたいなら、まずは教師集団（自分たち）から」という自省の念を常に抱き、子どもたちの成長を喜び楽しむ、そんな教育者・人でありたいと思うのです。



誰も一人にしない校長会

三重県小中学校長会 会長

松田 誠

令和4年度、三重県小中学校長会 会長を務めさせていただくことになりました、伊賀市立緑ヶ丘中学校の松田 誠です。新役員・

事務局の皆さん、校長先生方にお力添えいただきながら、誠心誠意、務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、田中前会長様をはじめ本年3月末をもってご勇退されました校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして、心より感謝を申し上げます。

昨年度は、国内で新型コロナウイルス感染症が拡大したため、都道府県を対象とした「緊急事態宣言」の発出や「まん延防止等重点措置」などにより、感染症対策に振り回された1年でした。卒業式や修学旅行をはじめとする教育活動が、中止や規模の縮小、延期、内容の変更等を余儀なくされるなど、さまざまな制約の中で私たち校長も重い決断を強いられ、子どもたちや保護者、地域の方々に寄り添いながら学校経営を進めてきました。

学校では、GIGA スクール構想に伴う ICT 環境の整備が進んだことを受け、各種の会議や研究大会において web 会議が急速に普及しました。また、児童生徒1人1台端末を活用した授業やオンライン授業が展開されるなど授業のスタイルも変化しました。学校生活の日常はまだまだ取り戻せませんでしたが、子どもたちの笑顔の一つでも増やすために、校長のリーダーシップのもと、「学びの保障」と「感染防止の取組」を両立しながら、教職員全員でできることを模索し続けました。

それとともに学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、「働き方改革」を進めることが求められています。現在、社会や

家庭の変化から学校や教員が期待される割合は拡大していますが、それらすべてを果たし続けることは困難な状況になっています。そのため、一層業務のスリム化を図る必要があります。法改正等による行政主導に頼るだけでなく、学校や教員による改善に向けた積極的な取組も進めなくてはなりません。学校現場で精一杯努力する教員の悲痛な叫びも多く見られます。それは、「児童生徒のため」という思いの蓄積であり、削減が困難なことも理解できます。教育の質を下げずに仕事の量を減らすには、まだまだ困難な現状がありますが、私たち校長が、積極的に改善を図る姿勢と取組が重要となります。

新しい生活様式では、行事や活動だけでなく、授業の進め方に至るまで様々な対応が求められました。文部科学省や教育委員会からの通知や指示で大きな方向性は示されましたが、私たちは学校の実情に応じて様々な対応を考え、判断し、最善を尽くしてきました。決断する時の一番大きな支えは、校長先生方と情報交流をしたり、学び合ったりしたことだったように思います。責任の重さは感じましたが、孤独ではありませんでした。

私たちは、「誰も一人にしない校長会」として、今後も連携を密にし、総力を結集するとともに、県及び各市町教育委員会、並びに関係機関等のご指導とご支援を賜りながら、本会の組織的で継続的な活動を通して「教育諸課題の解決や克服」に全力で取り組むことが大切です。そして、この機会に前年踏襲のスタイルからアフターコロナの新しい学びのステージ開発へ気持ちも新たに、明るい未来を切り拓いていけるような学校経営に邁進していきましょう。そのために、自らの専門性の向上に務め、学び続ける職能団体として存在意義を高められるよう、この校長会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

小学校部会



佐藤直史(幹事) 宇仁田元(幹事) 山上克俊(幹事)
小林宏行(副部会長) 吉永泰志(部会長) 布本 肇(副部会長)

中学校部会



上田章善(幹事) 山下隆久(幹事) 齋藤孝太郎(幹事)
金森晃生(副部会長) 松田 誠(会長) 花岡みどり(副部会長)

委員会活動

学校経営委員会

委員長 津市立西橋内中学校長

青木 利斉



今年度の学校経営委員会は、昨年度末から今年度当初にかけて、各郡市校長会から提出していただいた「小中学校教育の充実発展に関する施策並びに予算要望」をもとに、5月23日の第1回委員会から県校長会としての取りまとめを始めました。今後は、以下の基本方針に基づき、令和5年度に向けて県教育委員会事務局の各担当課への要望活動を行っていきます。

〈活動方針〉

- (1)各郡市校長会を通して、県内全小中学校長から県教育委員会の施策や予算等に関する意見を集約します。また、要望の焦点化に努め「重点目標」を設定します。
- (2)集約した意見を「要望書」「解説書」に取りまとめ、次年度の小中学校教育の充実発展に資するよう要望活動を行います。
- (3)昨年度の要望活動を踏まえ、子ども・保護者・地域・教職員の具体的な事例に基づいて要望活動を行います。
- (4)取りまとめについては、昨年度までの確認事項を尊重しつつ、要望書の信頼性を高めるよう努めます。

各郡市校長会から出していただいた意見は、学校規模や地域性によるものなど多種多様で、学校の多忙化や教職員の働き方に関するもの、教職員の人材不足や代替講師の確保などの喫緊の課題もあり、県教委への陳情と協議を通して教育施策や予算に反映させていく役割の重要性、責任の重さを実感しています。

会員の皆様のご協力をいただきながら、学校現場が抱えている現状、課題の改善、解消に向けて努力して参ります。

進路指導委員会

委員長 松阪市立殿町中学校長

青木 俊幸



進路指導委員会では、「公平公正な入試制度に向けての改善」、「コロナ禍における受験機会の保証」、さらには「教職員の働き方改革における進路業務の軽減」といった課題に対し取組をすすめています。

これまでの地道な活動と県教育委員会のご理解により、県立高校入学者選抜の「Web発表」等が実現しました。今後も、県内私立高校の「調査書やWeb出願システムの統一」等に取り組んでいきたいと思っています。

〈活動方針〉

- (1)児童生徒の理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現をめざす進路指導を推進します。
- (2)県内の小中間及び中高間において情報交換・意見交換に努めます。
- (3)三重県教育委員会・三重県立学校長会・三重県私学協会等の関係機関と協議し、現行入学者選抜の課題や入学者選抜制度等の改善に努めます。
- (4)キャリア教育についての研修に努めます。
- (5)新型コロナウイルス感染症の影響により生徒・保護者が不安を感じることなく進路に向かえるよう関係機関に聞き取り・要望・提案を行っていきます。

令和4年度 三重県小中学校長会 理事名簿

郡市名	会員数 (342)	小学校理事		会員数 (146)	中学校理事	
		名 前	学校名		名 前	学校名
桑名市・桑名郡	28	杉浦 裕一	精義小	10	三輪 秀磨	光陵中
いなべ市・員弁郡	17	中村 州宏	笹尾東小	6	島田 真也	東員第一中
四日市市	37	荻田 弘樹	楠小	22	山崎 浩文	塩浜中
三重郡	8	國富 朋子	朝日小	4	吉田 剛	八風中
鈴鹿市	30	藤本 寧夫	天名小	10	神原 由明	大木中
亀山市	11	石橋 明	亀山南小	3	岩間 浩哉	関中
津 市	50	田中 英	安濃小	20	青木 利斉	西橋内中
松阪市	36	油谷 雅司	粥見小	11	村田 功	西中
多気郡	15	池村 一平	津田小	5	佐藤 光一	大台中
伊勢市	22	西沢 宏文	上野小	10	西岡 幸一	小俣中
度会郡	12	石井 由美	田丸小	6	小林 達哉	南勢中
鳥羽市	6	松本 久彦	弘道小	4	木下 英樹	答志中
志摩市	7	上村 覚	東海小	6	古橋 雄洋	磯部中
伊賀市	19	松田 久司	依那古小	10	吉村 育紀	大山田中
名張市	14	廣岡 茂斉	桔梗が丘小	5	根本 健	桔梗が丘中
尾鷲市	5	大藤 明美	矢浜小	6	矢賀 正之	三船中
北牟婁郡	8	堀 譲介	矢口小			
熊野市	8	北村 尚	入鹿小	8	谷川 進悟	相野谷中
南牟婁郡	9	矢賀 睦都恵	御浜小			

生徒指導委員会

委員長 伊勢市立小俣中学校長

西岡 幸一



新型コロナウイルス感染症のまん延は、私たちの生活を一変させました。その中でも、成長過程にある子どもたちの心身への影響は特に深刻であり、学校生活にも及んでいます。学校は、子どもたちが健全に成長していけるよう、

実態をとらえ様々な手立てや支援を続けていく必要があります。昨年度の実践交流会では、総合教育センター臨床心理士から様々な課題をもった児童生徒の特徴やその対応について講義をいただいたのち、グループ別で実践交流を行いました。どのグループでも大変参考になる取組が報告され、有意義な時間を持つことができました。今年度はさらにその実践交流を充実させるよう、実践交流会一本に絞ったものにしていく計画を立てています。参加される先生方が、互いに学び合える場にしていただけたらと考えています。

〈活動方針〉

- (1)生徒指導等の諸課題の解決に向けた取組と支援の在り方を追求します。
- (2)地域及び関係機関との連携を密にし、互いの交流を深めるとともに、安心・安全な学校づくりに努めます。
- (3)県内小中学校間の情報交換を行い、県校長会及び各市町の校長会にも発信していくような取組を進めます。

〈活動計画〉

- (1)10月7日（金）生徒指導実践交流会を開催
「不登校への対応」についてのグループ別実践交流会
- (2)各市町（校）の生徒指導についての情報交換

広報委員会

委員長 玉城町立田丸小学校長

石井 由美



教員免許更新制が発展的解消となりました。しかしながら、令和の日本型学校教育を実現するために、私たち教員は主体的な学び・個別最適な学び・協働的な学びによる新たな知識技能の修得に継続的に取り組んでいく必要性

がますます高まっています。

このような教育を取り巻く状況の変化や様々な教育課題への対応や実践、郡市校長会の活動の様子などを「校長会みえ」を通してお伝えすることで、校長先生方の学校経営の一助となれば幸いです。また、県内他地域の情報収集・情報交換の

場として、会員同士の繋がりを深める場として、活用して頂ける広報誌になればと思います。

〈活動方針〉

- (1)会員の声を幅広く掲載するとともに、情報交換や情報収集の場となる紙面づくりに努めます。
- (2)広報活動を通して、会員相互の連携意識の更なる向上を図ります。
- (3)年2回発行し、情報提供に努めます。

〈活動計画〉

- (1)発行時期 7月、2月
- (2)編集内容 「私の学校づくり」「学校教育の今日的な課題」「新任校長の声」「私の薦める一冊」「ちょっといい話」「地区校長会だより」など
- (3)紙面構成 8面、カラー印刷
- (4)執筆依頼 当該地区の理事を通じて依頼
原稿を執筆していただく校長先生をはじめ、会員皆様のご協力をよろしくお願いします。

特別委員会

委員長 伊賀市立大山田中学校長

吉村 育紀



新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校現場では「新しい生活様式」のもと、各学校では感染症対応を第一に考え、現行学習指導要領の円滑な実施、GIGAスクール構想の推進、総勤務時間縮減に向けた取組等を行ってきました。

現在も感染拡大状況が劇的に改善されたわけではありませんが、「ウイズコロナ・アフターコロナ」といわれているように、共存・共生そして持続可能な学校運営への転換が求められています。特別委員会では、これまで各校において、行事等の目的や成果を見直し、精選してきたものをお互いに交換し、そのことを整理するなかで、今後の働き方改革にもつながる展望を見出したいと考えています。ご協力をお願いします。

〈活動方針〉

各学校、市町で新型コロナウイルス感染予防への取組のなか、行事等の精選や見直しが行われ、改善された取組事例を整理し、今後の展望を考察します。

〈活動計画〉

- (1)8月にアンケートを実施し、その結果から成果・課題等を整理し、12月に今後の展望を提言します。
- (2)各学校、市町の取組事例について情報提供を行います。

学校教育の今目的な課題



「温かみのある生徒指導」 を大切に

～ スケートボード問題 への対応 ～

四日市市立富洲原中学校長
天野 智裕

東京五輪における日本選手の活躍等もあり、全国的にスケートボード(以下「スケボー」と表記)の人気の高まっています。その一方で、スケボーに乗る「場所」の問題によるトラブルの増加が懸念されています。

本校でも、生徒が道路でスケボーに乗っているとの苦情が地域から多く寄せられる状況があり、その都度、教員が現場に駆けつけては注意をし、保護者に連絡するという対応が続いていました。何度も同じことで地域から苦情を受け、生徒に注意し、保護者に連絡するという、学校と生徒・保護者、地域との信頼関係を損ないかねない危機的な状況でした。

そこで、このような悪循環を断ち切るため、校内生徒指導委員会で協議を重ね、本校のめざす「温かみのある生徒指導」の精神に立ち返り、トラブルを未然に防止することに重点を置くこととしました。「温かみのある生徒指導」とは、生徒の気持ちを理解し、生徒の心に寄り添って、生徒と共に課題解決に取り組んでいくということです。まず、道路や公園でスケボーをしてはいけない根拠や法的な解釈、学校による指導等の限界について、市教育委員会、弁護士、警察等に相談しました。道路で乗ることは「道路交通法」の禁止行為にあ

たること、公園で乗ることは市の「都市公園条例」の迷惑行為にあたることを確認しました。また、学校は、生徒に教育指導はできても、当該生徒を強制的に学校へ連れてくることやスケボーを取り上げるなどの強制手段はとれないことを確認しました。それらをふまえ、放課後にスケボーを道路等で乗ったことがある生徒を一堂に集め、生徒指導担当者及び管理職と話し合いの場を持ちました。最初に、生徒指導担当者から、「集まってもらった経緯の説明」として、「スケボーが好きで、練習をしていることへの理解」「これまで、学校がスケボーをする場所や危険性について伝えてきたことの確認」「最近、スケボーに関する心配の電話が増えてきたことの共有」を行いました。

そして、「場所」については、してよい場所を明確にし、ルールやマナーを守らないと今後使えなくなることを確認しました。「危険性」については、人や自動車を通る道は、「公道」という認識を持つこと、自分自身の安全を最大限意識してほしいことを伝えました。次に、生徒から中学校に相談したいことを出してもらい、それらに一つ一つ丁寧に回答しました。最後に、校長から、地域の方が、①けがをしないか、②人にけがをさせないか、③車の前に飛び出してこないかをとっても心配していることを伝えました。生徒たちは、話し合いの間、真剣な顔で話を聞き、疑問や意見等を出していました。保護者には、スケボーに関して話し合いの時間を持ったこと、指導した内容、地域の人からの心配の声、危険性等について話をしました。この話し合いをきっかけに、生徒たちのスケボーに対する安全意識が大きく変わってきたことを感じています。今後も、継続的に生徒との話し合いや教育指導を行うとともに、保護者への啓発等を行い、生徒の社会的モラルの育成に努めていきたいと考えます。

新任校長の声



継承と進化

鈴鹿市立井田川小学校 校長
長谷 基弘

朝、自転車に乗り、校区に出かけていきます。本校は、鈴鹿川のすぐそばにある全校児童137名。校区の端まで自転車で10分程。登下校時には、地域の方々がみまもり隊として子どもたちを見守ってくれています。教室では、子どもたちが落

ち着いて学習に取り組んでいます。図書室には壁面掲示、書籍紹介などにたくさんの工夫が施され、子どもたちは何度も通い、読書をしています。

これまでの校長先生方が学校経営の柱として地域とのつながり、学習規律の徹底、読書活動推進に注力されていたことを実感しています。このような本校の良さの「バトン」を受け、継承する職責を感じています。

一方で、子どもたちの授業における表現力、単級校ならではの仲間づくり、組織的な教職員集団の構築などに課題を感じ、もっと進化させなければと考えています。

ある書籍に「校長が変われば学校が変わる」とありました。校長という職務が重責であるとともに、良さを継承し、課題には積極的に取り組むことの重要性を表した言葉だと思います。新任校長1年目。この言葉を胸に、一日一日を丁寧に、学校教育目標達成に向け「チーム井田川」の仲間とともに全力で駆けていきます。



信頼関係を構築することの大切さ

伊勢市立港中学校 校長
清水 能人

26年前赴任させてもらった学校に再度お世話になることになりました。当時のことを思い起こすと生徒指導で奔走する毎日で、自分が生徒たちにできることは何かといつも自問自答しておりました。先輩教諭に相談し気づかされたことの1つ目は、教職員がしっかりと信頼関係を作り連携をとること。自分の学年だけ、自分のクラスだけよければいいといった指導ではいい学校はできない。2つ目は、生徒自身が何を頑張ればいいのかをしっかりと提示し、評価すること。3つ目は、生徒たちに「学校は楽しい場所」ということを意識づけることでした。私は「とにかく徹底的に生徒たちに関わっていこう」と決めましたが、生徒との信頼関係をつくることは簡単ではありませんでした。様々な事案に対応している中、ある保護者から「担任としてあんたのやり方はちょっとどうかと思うところもあるが、一生懸命やっとなことはわかった。お前に任すわ。」と声をかけてもらった時のことは忘れることはできません。教職員と力を合わせ、一人でも多くの保護者、生徒から「この学校の人たちに任す」と言われるような学校づくりをしていきたいと思っています。



今、大切にしていること

志摩市立志摩小学校 校長
谷口 剛

本校は、志摩町内の5校(御座小・越賀小・和具小・布施田小・片田小)を統合し、平成29年に志摩小学校として開校をしました。児童数は年々減少していますが、本年度は223名が在籍しています。

この学校に校長として赴任し、慣れない仕事に戸惑ってばかりの毎日ですが、次の3つのことを大切に学校運営を進めています。

1つめは、「子どものことを知る」とです。いじめや虐

待等の問題や不登校の子どもの対応を考えると、子どものことを知らなければ確かな判断ができないと思っています。そのため、職員から子どもが置かれている状況等を聞くことを大切にしています。

2つめは、「学校の様子を保護者に伝えること」です。週に1回は学校通信を発行し、子どもの様子や学校が大切にしていることを伝えています。

3つめは、「情報共有を大切にすること」です。職員間で子どもや取組の様子等を交流できれば、子どもへの関わり方や取組にいい影響が出ると思っています。そのため、朝の打合せや職員会議、学年団会議の情報共有の時間を重要視しています。

他にも大切にしたいことはあるのですが「あわてず」「あせらず」、まずはこの3つのことを「あきらめず」に取り組んでいきます。

私の薦める一冊



どうしても頑張れない人たち

鈴鹿市立大木中学校 校長
神原 由明

以前勤務した学校で、繰り返し教室を飛び出したり、友だちに暴力を振るったりする、いわゆる発達に課題があると思われる子どもの支援に苦慮しました。このような子どもたちへの支援等について書籍を探中、出会ったのが「どうしても頑張れない人たち」でした。

お薦めのところは、第6章「支援者は何をどうすればよいのか」のところですが、支援者の心得からはじまり、支援する姿勢、環境づくり、達成感の持たせ方など、著者(児童精神科医)の具体的な事例により、自分自身の取組を振り返ることができました。特に「褒めるのに適切なタイミング」については、「何でもないことをいくら褒めても彼らの心に響かない。しかし彼らが一生懸命やったことに対しては、心からの感謝の一言だけで響く」が印象的でした。

教員として長く務める中では、自らの過去の経験や体験に基づいて、支援や指導はこれでいいと思いがちになることがあります。子どもたち一人ひとりが違うように、その支援の在り方も違っているということを実感しています。若い教員の皆さんには、是非読んでほしい一冊だと思います。

ちよつといい話



校長先生の話

いなべ市立三里小学校 校長

加藤 晋平

自分が校長として赴任するにあたり、心に決めたことが1つあります。それは「話をできるだけ短くする」ということです。教諭の時代から、私にはつい話し過ぎてしまう悪い癖があったので、特に気を付けなければと思っていました。

自分が子どもの時を考えてみても、すぐに思い出せる「校長先生の話」というのはそれほど多くありません。まして、長い話となれば途中で興味を失ってしまい、ほとんど聞いていなかったというのが正直なところです。そんな思いもあって、上記のような決心をするに至りました。

ところが…。いざ話をしようと準備を始めると、短くすることの難しさに改めて気付かされました。ただ短いだけでは、伝えたいことが伝わらない。小学校には1年生から6年生までいますので、話を短くしようと難しい言葉を使えば、低学年の子たちはお手上げです。かと言って、分かりやすい例をたくさん挙げれば話はどんどん長くなってしまいます。こうした矛盾に悩まされるわけです。

他の学校も同じだと思いますが、新年度校長は「始業式」「入学式」の順で挨拶をします。そこで、まずは始業式の挨拶を考えました。その時に「入学式で話しても大丈夫な言葉を選んで話そう」「後で聞いたら誰もが答えられるような内容にしよう」というルールを自分に課しました。ここからはまさに「作文」の勉強でした。自分が描く学校経営方針を実現するため、子どもたちに大切にしたいことを可能な限り平易な文章で端的に表現する。努力の甲斐あってか、始業式の後、3年生と5年生の学級だよりに「校長先生のお話を聞いて…」「始業式で校長先生が…」と書いてくれた子どもの作文が紹介されました。

私の話に耳を傾けてくれる子どもたちのために、これからも努力を続けていきたいと思っています。



親の背中を見て子は育つ

川越町立川越中学校 校長

田口 佐登志

親は子の鏡であり、親の考え方や価値観、行動などの影響を受けながら、子どもが成長していくことを意味することわざです。

私の父は、昨年12月に肺炎で入院をしましたが、このコロナ禍においては、家族も病室に入ることができず、傍らに寄り添うこともできないまま帰らぬ人となりました。

今回、このような文筆の機会をいただけたことから、私自身が父の姿を通して何を学び、何を大切と考えるかを、見つめ直す機会にしたいと思います。

父は、頑固ではありましたが、正義感が強く、実直でまじめが取り柄でした。読書が好きで、母と営んでいたトマトの生産では、味の良い品にするために多くの文献を調べ、具体的に改善するために学び続けるなど、知的好奇心の旺盛な面を持っていました。

しかし、その人生においては、岐阜県の田舎の代々続く家で6人きょうだいの長男として生まれ、戦争時に私の祖父が早くに亡くなってからは、青年時代より家族の柱としての役目を背負うなど、多くの苦労があったことを叔父や叔母から聞いています。

今になって思えば、学ぶことが好きだった父は、人生でやりたかった学問のために進学をするという道を選択できなかったのだと思います。

同じく、長男として生まれた私も、昔で言うところの跡取りではありますが、決して楽ではない経済状況の中でも、父は私の進学に際し、「お金のことは気にせんでいいから、大学に行って先生を目指せ」と私のやりたい道を後押ししてくれました。

そして、大学卒業後に実家に戻る選択をしなかった時でも、私が三重県で教員として働けるようになったことを大変喜んでくれるなど、どんな時でも、私の考えに耳を傾け、共感し、私が進みたい道を応援し続けてくれました。

今、私は2人の子の父親であり、また、新任校長としての立場となりました。自分の子どもたちだけでなく、職場の仲間、そして、学校で学ぶ子どもたちやその保護者に対して、自分の背中をどう見せていくか。私にとってその見本は、やはり父であると感じています。

人の幸せの分岐点は、その人の幸せを自分の幸せと受け止め、誰もが持っている可能性を応援し、支え、背中を押してくれる父のような存在に出会えること。

私も人の幸せの分岐点の1つとなれるよう、父が私にくれた名前の一字でもある「志」を大切に、これからも亡き父の背中を追い続け、成長していきたいと思っています。

伊賀市中学校長会

一人ひとりが輝くために

伊賀市中学校長会は、伊賀市内10校の中学校長で組織されています。生徒数は10校で約2,100人ですが、それぞれの学校規模は様々で全校生徒数500人を超える学校から全校生徒が50人に満たない学校まであります。伊賀市の教育理念である「一人ひとりが輝くこと」のもと、「一人ひとりが心豊かで健やかに成長・自立し、共に未来を創造すること」を目指して、10校の校長がそれぞれにリーダーシップを発揮し、各中学校の特徴を活かしながら、特色ある学校経営を行っています。伊賀市では、小中それぞれ校長会があり、活動は主に伊賀市校長会として19小学校長と10中学校長の29名で組織しています。伊賀市校長会では3つの研究委員会「学校経営・危機管理研究委員会」「教育課程研究委員会」「教育課題・指導育成研究委員会」のいずれかに所属し、今日的な教育課題等の解決に向けた調査・研究や研修に務めています。

また、年間9回の定例会を開催し、市教委からの所管事項説明、学校運営に関する今日的課題についての協議や情報交換等を含む全体会と小・中に分かれての校種別会議を行っています。中学校部会では、様々な課題や各校の取組についての協議や情報交換等を行っています。今後もお互いが気軽に相談でき、学校運営に関してのヒントや元気がもらえる関係を大切にし、共通する諸課題の解決に努め、伊賀市の教育の充実と発展を目指していきたいと考えています。



編集後記

梅雨の晴れ間に夏の足音が間近に感じられる今日この頃、各小中学校におかれましては、学期末を間近に控え、慌ただしい日々をお過ごしのことと拝察いたします。

今年度は、なかなか終息を見いだせないコロナ禍や、ウクライナ紛争をはじめとした混沌とした世界情勢の中、誰もが言い知れぬ不安や憂い、先の見通せない不透明感を感じながらのスタートだったのではないのでしょうか。

そんな中でも、各校の校長先生をはじめ諸先生方は、複雑・多様化した現場の課題を抱える中、何よりも子どもたちの「笑顔」のために、学校運営や

多気郡小中学校長会

三町で学び合う

多気郡は、三重県の中部に位置し、大台町、明和町、多気町の三つの町からなっています。大台町は、町の約90%以上を森林が占めており、町内全域が、ユネスコエコパークに指定されています。また明和町は伊勢湾に面しており、斎宮のハナショウブ群落は、国の特別天然記念物に指定されています。多気町は、北部を櫛田川、南部を宮川が流れ、古くから農業が盛んなまちで、伊勢芋、柿、松阪牛、鮎などの特産品が生産されています。多気郡小中学校長会は、そんな豊かな自然に恵まれた三町の15の小学校と5つの中学校の校長で構成されています。

郡校長会議を年間7回開催しており、教育委員会からの所管事項説明、県校長会報告、諸課題についての連絡・協議等を行っています。ここ数年、学校現場は、新学習指導要領の全面実施、GIGAスクール構想の導入、そして新型コロナウイルス感染症対策等、大きな教育課題への対応が求められました。学習指導要領改訂を踏まえた学校の教育目標や研修テーマの見直し、授業力向上のための研修、一人一台端末の活用、そして感染症対策をどう進めるか。学校にいと、日々の出来事、目の前のことに対応するのが精一杯になってしまうことがあります。そんな時、郡内の校長が集まり情報交換をすることは、視野を広げ、自校の取り組みを見直す、貴重な機会となっています。これからも特色ある三町の教育から学び合い、各校の子どもたちの健やかな成長に向けて取り組んでいきます。



教育活動に日々懸命に取り組んできたことと思います。

7月7日～8日には、わが三重県において、第62回東海北陸中学校長会研究協議大会が開催されます。開催県としての会場準備や分科会運営等への尽力はもちろんのこと、充実した討議や実践交流をもとに、教育のプロ・専門職としての意識や資質、指導力やリーダーシップの向上をめざし、大会が成功裏に終わることのできるよう共に頑張っていきたいと思います。

皆様のご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。